

2022

Autumn

6

サボセン



2020年度入学生の今とこれから

—カウンセラー座談会その2*—

*その1はサボセンvol.4掲載

岩田淳子、林潤一郎、山崎めぐみ、
光宗あゆみ、荻田真衣が参加しました。

3年生の入学後を振り返る



この夏の甲子園球児は高校入学と同時にコロナでしたね。本学3年生も大学入学早々にコロナ禍。まだコロナだけど、もう3年生。まずは振り返ってみましょうか。

サボセンは早々に相談をオンライン化して、学生が困らないように頑張りましたが、2020年前期の1年生からの相談は少なかったのが心配でした。4月5月は1年生の相談が多い！のが普通でしたから！



サボセンがあることも知らなかったのだから仕方ないです。でも、5月のゴールデンウィーク明けにZoom授業の受け方がわからない、という相談には焦ったなあ。

2020年は、1年生のみならず、オンライン授業に慣れるのに、みんなが必死でしたね。就活中の4年生の相談が多かったのが印象に残っています。企業も採用活動に影響を受けていたのですよね。

2020年後期からは1年生の相談も増えてきましたが、オンライン授業ならではの相談というか、家で一人で授業を受講していることのストレスを訴える学生が多かったです。上京できずに地方の自宅でオンライン受講していた学生もたくさんいました。親御さんから“対面授業の再開を望む”苦情も受けました。



部活・サークルの新入生勧誘もなかったから、2020年度入学生の部活・サークル加入率は全国的にどの大学でも低いそうです。

部活と比べて、特に、みんなで楽しくスポーツしたり、遊んだりするサークルは大打撃で、活動ができなくなってしまったところも少なくないそうです。高校までは結構マジに練習してたけど、大学では遊びっぽくスポーツを楽しみたいニーズは一定数ありますから、キツかったですよね。



履修のことがよくわかっていないまま、2年生、3年生に進級した学生も少なくなかった印象です。

就職活動をスタートした3年生



対面授業が本格再開した今年度、3年生なのに初々しい感じがしたのは私だけではないようです。

ある先生は、3年生が多く受講する専門科目の講義の出席率が高い、私語が少ないとおっしゃっていました。



3年生なのに、初めて学食で食べたとか！

それなのに、就職活動ですものね。



キャリア支援センター（以下、キャリアセン）オンラインでの就職活動関連イベントの参加者数が、例年以上に多かったそうです。よく頑張っている！って感心していましたね。



心理士の私たちから見ると不安の裏返しにも思えるけれど、いわゆる<学チカがない>問題とか。



キャリアセンによると、何をしたか！にこだわり過ぎない方がいいみたいです。確かに、こんな激動のコロナ禍で社会や大学、自分について考えざるを得なかった学年はいないですから。

今の学生の多くはSNSによって情報収集や情報発信することが得意ですよ。だいたい学生は複数のアカウントを持っているらしい。



今の若い人たちにとってのSNSは、リアルとは別物じゃなくて、リアルと地続きとして捉えているらしいです。大人にはわかりにくい感覚ですけど。



心理学的には「解離（苦痛を伴う脅威的な体験や出来事を意識に上らせることから切り離す機能）的」ではないか？という意見もあるくらいです。



バラバラの自分を統合しなくていいみたいなの。。アイデンティティのあり方自体の変化とも言えるかもしれませんが、就活にはどんな影響があるのでしょうか。

大抵、「就活アカ」を作るみたいで、頑張っていることを周囲に伝えている学生（例えば、低学年のときからインターンシップしたり勉強会しているみたいな）のツイートに落ち込んだり、同じような悩みを持っている学生に勇気づけられたりしているそうです。

情報過多かつフェイクも混ざっている多様な情報に振り回されないようにしてほしいですね。

学生部から注意喚起がありました（ポータルメッセージ7/25:学生支援事務局発信参照）。



2020年度入学の3年生に向けてのエール



キャリアセンは活用してほしいですね。親身に相談に応じてくださるから安心。サポセンとも連携しています。



学生のなかにはSNS使わない派もいます。嫌なのに無理して使うこともない。ただし孤立しないでほしいです。就活はストレスになるのは確かですから。

これは2020年度入学生に限ったことではないけど、いつからか、良くも悪くも、大学入学した途端に就職を意識せざるを得なくなっていますよね。就活は早く始めれば良いというものでもないのではないかな？



大学は社会に出る前の最後の教育機関ですし、社会でどんな仕事をしていきたいのか？どんな役割を果たしたいのか？向き合っていくことは大切だと思いますが、考えてばかりでは仕方ないし、大学生という時間と場を十分に活用してほしいですね。



2020年度入学の大学3年生が、これまでとはかなり異なる形の学生生活を過ごしたと自体は紛れもない事実で変えようはないです。

一生、言われそう。ああ、コロナ世代ねって。



コロナ1年目の開拓世代ともいえます。だからこそ、それを強みにしたいですね。“3年生のときに教室がわからなくて構内で迷子になったけど、SNS活用して学内外での活動は広げました！”とか、就職面接で言える。



部活に入りそびれてしまったので、勉強しまくりました！とか、マスク越しにゼミでディスカッションするときには、声の出し方に工夫しました！とか。



コロナ禍の学生生活を敵ではなくて味方につける。それが2020年度入学の3年生の強みになると信じたいと思います。

共に学ぶということ

障がい学生支援室 菊地 澄子

皆さんは「障がい」という言葉にどのようなイメージをもっていますか？なかには特別な先入観をもったり、あるいは自分には関係ないと考える人もいるかもしれません。

一口に障がいといっても、その状態は人それぞれです。成蹊大学には、障がいによる困難を抱えながらも学んでいる学生が少なからず在籍しています。

障がいのある人とない人が共に学ぶ仕組みを「インクルーシブ教育システム」と言います。教育の場から「共生社会」の土台作りをしていこうとするものです。このシステムは「障害者の権利に関する条約」（2006年 国連）の中で初めて明記され、現在では日本を含む185の国と地域で、その構築が進められています。この理念をわかりやすく表したのが下の図です。

この図で言うと、インクルーシブ教育が目指すのは、「誰もが同じ場で共に野球観戦できること」になります。柵はその際の社会的障壁を表し、踏み台が配慮や支援を意味します。左の絵のように3人が同じ踏み台を利用して目標は達成できませんが、右の絵のように3人それぞれに合った踏み台があれば達成できることになります。共に学ぶためにはFairであることこそが重要なのです。

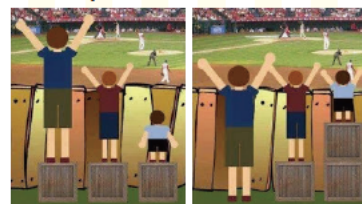
障がい学生支援室は、皆さんの「教育を受ける権利」を保障し、共に学ぶ機会を確保するためのキーステーションです。その人にとって必要かつ適切な踏み台（合理的配慮*）を、一緒に探したり作ったりして、サポートをするイメージです。

障がいは、決して固定的な状態ではなく、周囲の理解や支援の有無などによって変化します。だからこそ多様な違いを認め合い、その違いを互いに尊重できる「共生社会」の実現が求められています。若い皆さんがどれだけ自分のこととして考えられるかが、未来のカギを握るように思います。まずは少し視点を変えて、意識のもちようや周囲へのかかわり方を見直してみませんか？

Fair is when every one gets what they need.

Equal

Fair



*合理的配慮とは、障がいのある学生が他の学生と平等に「教育を受ける権利」を確保するために、大学が行う変更・調整のことです。

<http://www.joebower.org/2013/06/>

サポセンスタッフ紹介

カウンセラー



いわたあつこ
岩田淳子

(文学部教授
公認心理師/臨床心理士)



はやしじゅんいちろう
林潤一郎

(経営学部教授
公認心理師/臨床心理士)



やまざき
山崎めぐみ

(公認心理師
/臨床心理士)



みつむね
光宗あゆみ

(公認心理師
/臨床心理士)



おぎた まい
荻田真衣

(公認心理師
/臨床心理士)



しみずひろみ
清水宏美

(公認心理師/言語聴覚士
/臨床心理士
「英語対応可」)

学修支援コーディネーター



しろつきたまみ
城月珠美

(公認心理師/臨床心理士
/特別支援教育士)



おざあきこ
小竿顕子

(社会福祉士/公認心理師
/介護支援専門員)

きくちすみこ
菊地澄子

(公認心理師
/特別支援教育士)

精神科医

相談日

月1回 第4水曜日 10 - 13時

相談方法

必ず学生サポートセンターに問い合わせの上、
予約してください。



ふくだしんや
福田真也

カウンセラー・コーディネーターからのメッセージ

Have a break

6



本音を語れる場

臨床心理士・公認心理師 山崎めぐみ

今は、LINEよりもInstagramを名刺代わりに交換していることを、複数の学生さんから聞くことができました。多くの方は、インスタの本アカ(垢と書くらい)と裏アカと複数のアカウントをもっていて、裏アカは本名を明かさず、そこから気の合いそうな人にDMを送って、お話をすることもあるとのこと。裏アカでのつながりは、本アカのようにしづらみがないので、色々考えずに本音で語れるのだとか。。。

昭和の人間からすると、新しい他者との出会い方に驚きつつ、心配しつつ耳を傾けていましたが、一方でこの話を聞いて、文通や学生の頃に参加した、エンカウンター(人と出会う)グループに参加したことを思い出しました。このグループは、カウンセラーのトレーニングにも用いられ、一期一会で名前も明かさず、解散したら基本つながりはありません。お互いを尊重し、ジャッジされず、丸ごと本音を肯定的に受け止めてもらう体験は、自分の可能性を広げ、多くの気づきをもたらしてくれます。

このような体験は特殊といえますが、最近は友人であっても、なかなか本音で語ることが難しくなっているといえます。だからこそ、失敗が許容される、何者でもない関係の中で、本音を語れる場を、多くの人が求めているといえるかもしれません。様々な手段で多様な人と出会い、本音で語れる場を模索していることに、リスクを考慮しつつも、簡単に否定することはできないと感じています。

青年期の皆さんにとって、他者に本音を語り肯定的に受け止めてもらうことは、今も昔も変わらず重要なことで、自分を知ることや、育てることにつながります。今後、どのように人は出会っていくのでしょうか。想像できない未来を見つめつつ、大学の中で、少しでも学生相談室が“本音を語れる場”であり続けられたら、、、そのような場が少しでも広がったら、、と切に願うのでした。

らんちゃんミーティング秋

2022年10月20日(木) 昼休み(12:20-13:10)

他学部他学年をこえて、交流しませんか?今回は、対面開催になります(※)。新入生の方、今まで参加したことのない方、はじめての方も大歓迎です!パンのお土産も用意しています!

対面会場: 2号館206教室

申込: SEIKI PORTALよりお申し込みください 定員: 20名

※マスクを着用してください。※新型コロナウイルスの感染状況によって、開催方法がオンライン形式に変更する場合があります。

ここプロ vol.2

コミュニケーションをとるための声からのアプローチ

2022年11月10日(木) 4限(15:00-16:40)

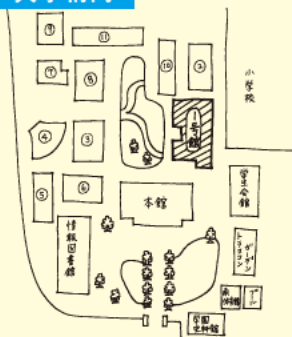
マスク着用&アクリル板越しのプレゼンやグループワークに「自分の声が届かない!」と、もどかしい思いをしている人も多いのでは?授業や就職活動で自分の思いを相手に届けるための発声や体のほぐし方をボイストレーナーの先生がレクチャーしていただきます!

講師: 浜田真実氏(マミィズボイススタイル代表、ボイストレーナー)

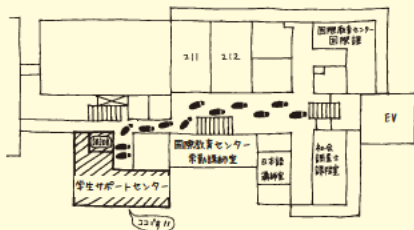
場所: 未定 感染状況によりオンライン開催となる可能性があります。

申込: SEIKI PORTALよりお申し込みください

大学構内



1号館2階



学生サポートセンターは1号館2Fです

成蹊大学学生サポートセンター

180 - 8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3 - 3 - 1

Tel. 0422-37-3807 Fax. 0422-37-3879

www.seikei.ac.jp/university/campuslife/ogcps.html

